

令和7年度 草津市教育情報化推進懇談会 議事録

■日時

令和7年10月14日(火) 13時15分～14時45分

■場所

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員

中西委員、加納委員、木村委員、大林委員、尾関委員、山本委員、野口委員
吉田委員(オブザーバー)

■事務局

教育部 菊池理事
児童生徒支援課 高橋課長補佐
教育研究所 小林所長
学校政策推進課 名田課長、原田係長、陌間専門員、西塚専門員、宮川

■議事録

13:15

事務局

皆様、本日は公私ともご多用のところ、ご出席をいただき大変ありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから草津市学校教育情報化推進懇談会を始めさせていただきます。私は、学校政策推進課 課長の名田でございます。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、教育部理事 菊池よりご挨拶を申し上げます。

<挨拶>

事務局

委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。別紙1にございます名簿の順に簡単に自己紹介をお願いいたします。

<委員・事務局 自己紹介>

事務局

続いて、当懇談会の位置づけを御確認申し上げます。お配りしております資料1の最後の「草津市学校教育情報化推進懇談会開催要綱」を御覧ください。

当懇談会は、第1条にございますとおり、草津市の小中学校における ICT 活用の促進および情報教育の充実を図り、計画的かつ組織的に教育の情報化を推進することを目的としております。教育の情報化に関する施策の実施や計画の実行・見直し等に際し必要な、『意見交換・懇談の場』として設置しているもので、市の政策を直接審議・決定する会議ではございません。よって委員の皆様にはあま

り堅苦しく考えていただくずに、それぞれのお立場・御経験から率直な御意見をいただけますと幸いです。皆様の御意見を参考としながら、今後、教育現場においてICTの活用をどう進めていくかといった基本的な方向性を打ち出していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、開催要綱第2条第3項において、本懇談会に座長を置くとしており、委員の互選により定めることとなっております。どなたか座長の推薦・立候補はございますか。

＜委員の互選により、加納委員が座長に就任＞
＜加納座長の指名により、木村委員が座長代理に就任＞

事務局 それでは加納座長、議事進行をお願いいたします。

座長 では、次第に沿って順次進めていきたいと思ひます。
最初に「第2期草津市教育情報化推進計画の進捗確認等」について、「草津市学校教育情報化の推進にかかる令和7年度の取組」について事務局から続けて説明をお願いします。

 なお、事務局からもあったとおり、本懇談会は意見交換・懇談の場ですので、限られた時間を意見交換に活かしたいと考えておりますので、簡潔な説明をお願いします。

 事務局の説明後、委員の皆様には総括的な意見のほか、皆様のご意見やご感想、課題点等を頂戴したいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

 では事務局からお願ひします。

＜資料1～3に基づき事務局説明＞
※ICTを活用した授業等の動画の視聴を含む。

座長 ありがとうございます。
 ただいまの説明の中で質問、ご意見ご感想など、何でも結構ですので、草津市の取組やその評価、今後の課題を中心に、どなたからでも結構ですのでご自身の経験等も含めて積極的にご発言いただければと思ひます。いかがでしょうか。

委員 私が注目いたしましたのは、資料2の6ページ「到達目標に関するアンケート結果一覧」でございます。こちらの保護者アンケートにおいて、令和4年度は80%であった回答率が、令和5・6年度には一気に90%を超えており、大変驚きました。これは非常に素晴らしい成果であり、デジタル化やペーパーレス化が保護者の方々に肯定的に受け止められている証左であると感じます。草津市教育委員会の皆さまの日頃のご努力の賜物だと思ひます。

一方で、教職員のアンケート結果における「負担軽減」の項目では、目標値80%に対し、実績値が70%にとどまっている点に、やや懸念を覚えました。もちろん、年度を経て改善されている可能性は十分にあると思いますが、教職員の業務負担というのは、私自身も教員の一人として実感するところであり、実に多様で重いタスクが日々押し寄せている状況です。したがって、ICTによる業務改善や効率化が、必ずしも容易ではない現実もあるのではないかと感じました。

また、最後に気になりましたのは、「情報セキュリティ事故の発生件数」が継続して0件である点です。これは非常に喜ばしい成果である一方で、セキュリティに関するガイドラインや意識啓発の徹底については、油断なく継続して取り組む必要があると考えます。ご承知のとおり、情報漏えいやセキュリティの脆弱性が原因で生じる被害の規模は、個人アカウントレベルのものから、自治体や教育機関全体に及ぶ大規模なものまで多岐にわたり、その社会的影響は甚大です。最近では「ランサムウェア」という言葉も広く知られるようになってきましたが、その仕組みや防止策については、まだ十分に理解されていない面もあります。

今後は、大人だけでなく、児童生徒にも情報セキュリティに関する基礎的なリテラシーを身につけさせる教育機会を設けることも重要ではないかと感じました。

座長

ありがとうございます。

教員側にはまだ若干の課題が残っているということでした。

その他の方はいかがでしょうか。

委員

基本目標1に関して、「ICTを活用し効果的な授業を充実」の児童生徒アンケートで、「電子黒板やタブレットを使って授業が分かりやすい」項目で成果が見られるのは、先生方が非常に努力をされて、苦勞もされて授業で活用し、それが学びにつながっているのだなということが、このアンケートから実感することができました。我々もいろいろな所で活用支援に関与させていただいており、ICTの活用が進む中で、本当に学び方が変わってきたなと感じております。説明の中でも「先生はまとめ役」とありましたが、児童生徒が個人で学ぶ、チームで学ぶといった時間が非常に増えてきたと思います。授業の組み立て方や、評価の仕方、進捗のはかり方も日々変化していかなければならないところがあると思いました。研修についても、教員研修は非常に充実していると思いますが、世間ではクラウドを活用してどのように研修を行う等、草津市においてもこの夏からクラウドの利用がますます進む中で、対面の研修だけでは教育の移り変りのスピードや、教育手法の変化にタイムリーに対応できなくなる部分もあると思いますので、クラウドを活用して児童生徒が能動的に学ぶ・主体的に学ぶためにも、先生方には新しい教育手法をどんどん取り込んでいただいて、児童生徒が本質的に学ぶ、主体的に1つの問いに対して理解を深めていく、探求を深めていくというところを伸ばし、児童生徒のア

ンケート結果が 100%になるようにご支援をさせていただきたいと感じました。

座長

ありがとうございます。

教員研修自体もオンライン化を進めても良いのではないかとということで、研修のノウハウをオンラインで活かすことができればより良いかなというところでした。個人的にはその児童生徒っていうのは、多様な児童生徒がいるので、どこまでの児童生徒を指しているのかも95%以上を目指す場合は考えていかなければならないのかなと感じました。個人的にろう・難聴児向けの教育もしてきています。そういう意味では、基本目標1の(3)の個別の支援や配慮を要する児童生徒に対する ICT について、草津市はずっとやられています、より重要になってくるのではないのでしょうか。もう少しお話を伺いたいと思います。

委員

今先生がおっしゃった内容で、これから進めていくことについて、楽しみにしています。こども達を見ていて、ICT というものにすごく興味があって、パソコンとかでプログラミングをしたいという不登校のこどももいて、講師に来てもらっての勉強や、オンラインで関わっているこどもも出席扱いになることが増えてきている中で、今年度どのような形で進んでいくのかということと、このかかわりの中で先生がとても大変であると感じました。自分自身が新しいことをたくさん覚えるのが大変だと思っていて、学校現場にもそういうスペシャリストの方がいらっしゃるのかとか、既存の先生方が学ばれているのか知りたいのと、今後、学校教育現場にどんなスペシャリストの方が入っていくのか興味深く感じています。

座長

ありがとうございます。

この辺りは学校現場としていかがでしょうか。

委員

教職員の話としましては、今年9月に端末が新しくなりました。研修やスキルアップを業者に来ていただいて実施をしているところです。現在は Teams でファイル管理や情報共有、チャットを行い便利になっています。気軽に隣の人にアドバイスするなどの、教員同士のコミュニケーション能力というものもすごく大事ななと思いますし、職員室内もそのような雰囲気になっているので、ICT にとっつきにくい先生も気軽に聞いてこなしているような様子を見ることができています。

職員会議では Teams を開いて、会議を開催し、資料を完全ペーパーレス化し実施しているなど、聞くよりも見て覚えることで、機会を増やそうとしています。

座長

ありがとうございます。

スキルのギャップを埋めようといったところが現場ではされているということで

すね。ほかの方はいかがですか。

委員

気になったのは、持ち帰りの頻度について、月に1回以上という記載がありますが、知っている学校では、毎日持って帰って、協働学習ソフト等で連絡を取りあっているのに、他の学校も同様に毎日持ち帰るようなことはできないのかなと、同じ端末を1人1台持っているのもったいないなと思いました。学校によっては、持って帰らせてもらえないところもあると聞いています。不登校のこどもに対して、タブレットを渡してもらえませんが、使い方等の説明がなく、いろいろ操作する中で、使えそうなアプリを見つけて、学校に確認すると教えてくれたりします。不登校の子も1人1台持っているのに、使う用途がないので、持っているだけになってしまっていると草津市に限らず、全国の自治体でよく話を聞きます。不登校や学校に行けていないこどもに対するサポートが資料の中には詳しく書いていないので、聞いてみたいです。指標の中にも学びを保証しますと記載がありますが、どのような形で不登校のこども等に対して学びを保証しているのか、アプリや教材の活用は具体的にどのような感じなのかお伺いできればと思います。

座長

ありがとうございます。

端末がどれぐらい学校や教員と紐づいているのか、独立して学べるようなものとして使われているかというお話ですね。本日は、それを積極的に運用していく仕組みを話し合えるかと思っています。学校現場としていかがでしょうか。

委員

タブレットの持ち帰りについては、週末に持ち帰りを行って、協働学習ソフトで出された課題に取り組む、それぞれの進捗に合わせてアプリを使用した学習を行っています。小学校低学年の子の場合は、タブレットが少し重たいので、週末は荷物を少し減らして、その代わりにタブレットを持って帰って学習するという使い方が多いです。長期休みも持って帰って、学習したものを先生に送るという使い方をしていたとも聞いています。不登校の児童については、状態にもよりますが、色々な課題を送ることができるので、それを使っている場合もあります。

委員

やり取りを児童とされているということですか？

委員

児童にもよりますが、端末を使用して連絡を取りあっている場合もあります。

委員

中学校の場合についてですが、長期休みの場合は全員持ち帰りますし、不登校の生徒とのやり取りもうちの学校では行っています。中学校はいつ持って帰ってもいいので、実際の活用状況で行くと、協働学習ソフトや Teams で先生が課題を出したり、提出させたりというのは普通に行っている状況です。生徒会は特に活

発で、パワーポイントの資料なども全部自分たちで作成したりします。学校 HP の生徒会のページについて、アップロード作業は先生が行っていますが、作成しているのはすべて生徒が行っています。先生方についても、先週体育祭がありましたが、HPにリアルタイムでアップロードを行っており、デジタル化は進んでいます。保護者との連絡も情報共有アプリを使用し、欠席連絡等のやり取りをコメントでもできるので個別にされているところです。ただ、対面や電話も非常に大切なので、家庭ごとに個別対応ということで行っています。

座長

ありがとうございます。

端末がコミュニケーションツール、学習ツールとなっているけれども、比較的コミュニケーションが前提になっている学習ツールとなっており、学習ツールとして独立して先生なしで何かをする、やっている状況が少ないのではという意見でしたが、現状はやはり学習ツールとしての状況は少ないということですね。

委員

ドリルなどの利用はもちろん可能ですが、その子の状況にもよるのかなと思います。放課後に登校してもらって一緒に勉強や、別室で端末を利用する場合があります。そこをどういう風にサポートしていくのかを気にされているということですね。

座長

端末だけで独立するということは先生からの指示で劇的に変わるのではないかとということでした。

関連した話になりますが、結局教育 DX ってどうすればいいんだということですね。特に生成 AI を活用していいということで教育データ、情報データの利活用と生成 AI について事務局から説明いただきたいと思います。

<資料3に基づき事務局説明>

座長

ありがとうございました。

まずは先生側が使うというところからスタートするで、徐々に児童生徒さんにも開放していくという大きなロードマップがあるということですが、今年度については先生側が使っていき、で、先生側が使っていき中で気づいたことがガイドラインという形で反映されていくと、それでより安心、安全、効果的に使っていきことができるというのが、ロードマップなのかなと思っていますが、この2点について先に児童生徒が、この先に待ち受けているとしたら、こういう風に意識して欲しいとかという観点や、どういうところに気をつけたらいいのかなという角度からご意見いただければと思います。

委員

英語教育の分野では、現在まさに「AI ショック」とも呼べる状況が訪れています。「AI を活用していこう」という流れが進む一方で、「AI にはできないこともある」と、あえて AI の限界を探し、自らの安心を保とうとする人々も見られます。業界全体が混乱の中にあると感じています。私自身、これまで「生成 AI を活用した教育の可能性」をテーマにシンポジウムなどを開催してきましたが、毎回数百名規模で参加申し込みが即座に埋まる状況です。それだけ多くの方が、「自分の仕事が AI に奪われるのではないか」という危機感を抱いているのだと思います。そして、これは現実には起こりうるのだと考えています。

私はいわゆる「就職氷河期世代」に属しますが、かつて4年制大学を卒業してもなかなか内定が得られない時期がありました。今後、同じような「AI 氷河期」とも言える時代が訪れるのではないのでしょうか。実際、アメリカでは、これまで就職率や待遇が最も良かったコンピューターサイエンス系の卒業生の内定率が急落しているという報告もあります。日本においても、同様の現象が起こらないはずはなく、すでにその兆しが見え始めているように思います。

先ほど、不登校児童の話題がありました。不登校にはさまざまな背景があると思いますが、文部科学省の調査によると、現在約 34 万人の児童生徒が不登校の状態にあります。裏を返せば、通信教育や遠隔教育に新たな可能性が開かれているとも言えます。オンライン環境は、生成 AI が最も活かされやすいプラットフォームであり、新しい教育機会の創出や教育ビジネスの展開にもつながると考えられます。

英語教育業界で今起こっている AI による激震は、今後ほかの分野にも波及していく可能性が高いと思います。

英語は「読む・書く・聞く・話す」という4技能すべてを含む教科であるため、AI の影響を最も早く、そして強く受けています。

今後、他教科や他分野にも同様の変化が及ぶことは十分に考えられます。こうした変化を踏まえ、児童生徒への教育にどのように展開していくかは非常に難しい課題です。しかしまずは、先生方ご自身が生成 AI の可能性を「自分ごと」として受け止め、真剣に向き合う機会を持つことが重要だと思います。そのためにも、教職員研修などで AI をテーマとした学びの場を設けることが、一つの有効な方向ではないかと考えます。

座長

ありがとうございます。

先生にとって、生成 AI が競合になる可能性、オンラインでの教育という観点から見ると、救世主的、かなり促進するような形になって、恩恵を受けるような生徒さんもいるのではないかという話でした。

生成 AI であればなんか自分だけで学習できてしまう気がしますが、それはやっぱり維持するためだったらできるという感覚で、最初はやっぱり誰かに教わっ

てないと、という感じもあるのかと思っています。その辺の人がいい、人の先生がやるべきこと、そのあと生成 AI でもやれるということ、ベストミックスというか、アナログとデジタルベストミックスと最初に仰っていましたが、デジタルと生成 AI のベストミックスみたいなのも出てきそうですね。他に御意見ありますでしょうか。

委員

私のほうからは質問になりますが、やはり生成 AI の活用のところは本当にテクニックが必要だと思います。使えば便利ということは誰もが認識している中だと思っておりますが、どう使えば便利になるのか、校務の効率化、業務時間の削減を本当に実現するために、AI にどのようなプロンプトを入れて質問すれば求める答えが返ってくるのか、もしくは、こんなものを作って欲しい時に、どのように依頼すれば AI が返してくれるのか、を一度経験すれば、次は応用で進むと思います。やったことのない先生には非常にハードルが高く、正直何をすれば良いか分からない、AI を使うと便利であることは分かるがどう使えばいいのかが分からない、ということだと思います。そのため、最初のステップどう乗り越えるのかが重要だと思いますので、文科省から出ているガイドライン等を活用するとともに、先生同士のコミュニケーションの中で、こんなものが作れた、これだけ時間が削減できたという利用成果を共有できれば皆さん活用に踏み切ると思いますので、今後どのように取り組みされるのか、現在どのような取り組みをされているのかを伺ってよろしいでしょうか。

委員

先生方は、2、30 代の先生が大変多くて、使いたいという意識がすごく強いです。簡単に言うと 9 月 10 月の職員会議の議事概要を、ワードで自動テキスト化して、ずっと動かしておいて、それを AI に会議の項目を読ませて、それに合わせて議題を作ってくださいということで作らせたのを、人の目でチェックを行いますが、それを議事概要としました。教員の方からそれをやってみたいということで、実施した形になります。もう一つ例を上げさせていただきますが、デジタルとアナログのベストミックスというところがあり、本当にコミュニケーション、対面のコミュニケーションも大変大事というのは明らかですし、それは草津市の ESD の取り組みに入っていて、対面対談的なことを、デジタル使いながらやるというのはすごく本当にベストミックスみたいな形です。一つ例を上げると 1 年生の国語教員が、ビブリオバトルを全員にやらせて、チャンピオンを決めましたが、協働学習ソフトで音声録音し、それをホームページで保護者は聞くことができるようにしたり、本の紹介カードを全員に書かせて、文化祭で掲示しているのですが、その時に保護者が見に行きたいサイトに入っていくのが面倒なので、QR コードをその教員が、生成 AI で作成したりしました。QR コードを生成する無料サイトとかありますが、作成する必要がなくなりました。生成 AI で、QR コード作ってと指示したら、画像が生

成されました。URL 短縮も勝手にしてくれます。そういうことを、自分たちでやっていて、良い使い方だなと思いました。例でご紹介させていただきました。

座長

ありがとうございます。特に若い世代が使い始めている、当大学の教員も、基本的には、生成 AI にやらせようみたいな感じですが。基本的に面倒なことは全部生成 AI にやらせてみたいということで、当大学はチャット GPT を全国で先駆けて導入するなど、データサイエンスがどう生成 AI と付き合っていくということで、やり始めている大学の一つなので、学生達も結構積極的に使おうとしています。そういう人たち、新任教員ですね、入ってくると当然使い始めるし、教員とか大学で使った経験なんかもうそろそろ、現場に還元されていくのかなと。そうやってほしいなと教員養成側としては思っているところです。

生成 AI と端末が家にあるとした時に、どんな活用、展望や希望がありますか。

委員

生成 AI はよく利用しています。例えばドリルとか行った際に、学校で利用状況を集約できると思うので、それを参考に、ネタがないと話ができないので、この子頑張ってきているなど、探すツールとして使ったら、もうすごいいいなと思います。

心配なのは、生成 AI を校務で使うというのは、どの生成 AI を使用するのかなというのと、セキュリティをどうするのかというのを感じました。気軽に使えると、気軽にデータを入れるということが絶対にできると思うので、それが、ちょっと心配になりました。例がないと、多分思いつかなくてできないのではないかと考えています。

座長

ありがとうございます。

生徒さんの方が、よく知っている状況が来るような気がしますね。生徒さんから先生がお伺いいただくのではないかなという風には思いましたが、1 点その、生成 AI は何を使うのかという点や、セキュリティの質問があったかと思います。事務局いかがでしょうか。

事務局

今使用しているのは、教員全員がマイクロソフト 365 のアカウントの A5 でして、そこに Copilot が無料で付随するという形になっています。その A5 アカウントで入りますと、セキュリティが守られているという状態で入ることができるので、個人情報とか入れないようにしているのですが、万が一入れたとしても、そちらに学習はされないという設定になっています。なので、情報が漏れたりする心配は現時点で無いという風に思っております。それと、画像生成については Canva というものも使えるようにしております。言語も、文字の方は、その Copilot を使って、画像とかに関しましては Canva を使うみたいな形を、今、できるようにして

います。

委員 児童生徒も Canva を使っていますか？

事務局 児童生徒はまだ生成 AI 機能に関してはちょっと止めています。これからどのように使えるようにしていくかというのにも検討していきたいと思います。

委員 情報共有アプリについても生成 AI が使えますので、そこで、文書生成とかそんなすごく、例文として活用している状況もあります。

座長 ありがとうございます。
他の方はいかがでしょうか。

委員 色々聞いたりとかする中でとか自分で試行錯誤したりして、褒めてもらえたりとか、もう、とても機嫌良く作業が進めるとかというのもありますし、こどもたちは Canva を使って、それで、自分たちでチラシを作ったりとか、自分たちで自分たちを PR するみたいなのをしたりとかしており、それでちょっとオンラインの子と繋がったりとかしていました。ツールがあると、そういう話も登校できている子とオンラインの子で繋がることのできたので、シェアしていいなとも思います。本当に便利なので、例であったりとか、ルールであったりとか、今後私たちが気づかないところで色んなことが起こってくるのだろうなというのは思うので、その辺も、色々ご指導頂けたら嬉しいなっていうのは思いました。

委員 私も日常的に、AI を使用しており非常に便利です。自身のサポートとしてすごく良いツールになっています。その上で、この教育の AI に関し、教育の活用から AI に関して言うと、主にこう学習のコンテンツ主体化や、教育の支援教育、効率化、そして保護者との連携という 3 分野が主にこの AI の分野ではあるのですが、具体的に言うと、どこまでの AI がどこまでのことにしておくかが非常に今後大事になっていきます。例えばですけども、学習させないという選択もあるはずですが、今はそうですね。そうなった時に、人工知能かどうかって言うと、どの程度現れるかです。人工的に考えるけれども、自動で学習をしていくかどうか。
この学習を教育と見出すか、もしくは学習させないことが安全と見出すかということところが全然違ってくるので、この安全の領域でいくのであれば、学習させないモードを用いるというのが今現状です。もし学習させていくと、もちろん学んでいきます。膨大な量を学んでいきますので、そうなった時、やっぱり結局のリスクは少しずつ上がってくるのが今の AI の仕組みになっているので、良い部分でもあれば悪い部分でもあるっていうことをうまく考慮しながら学習させていく必要がある

のかなという風には思いますかね。直接名前を聞いて、名前を答えて成績を言ってくれることは、今の時点ではありえないですけども、とは言え、便利だからといって、より幅広く使うとすると、やはり学習してしまっている点、この辺が結局 1 番、今最も懸念されている思考です。国が今どこまで目指しているかは、未知数のところがあって、どのバージョンのどのモデルを使うか分かりません。今 A5 の話が出ましたけども、A5 ですと、一応、積極的な意味では安全とされています。AI が何を学習しているのかとかが見えないので、この点についてはちょっと気を付けていく必要性は、もう本当に将来的なことだと思います。

主体的に行っていますから 2050 年まで向けてですね、ちょっと、ずっとこれは皆さんの注意していただけないといけないところがあるのかなって思っています。以上です。ありがとうございます。

座長

ありがとうございます。

国が法律を作ってくれないと困るみたいなどころもあるとは思いますが、欧州には法律がありますが、日本みたいにまだ規制が緩いところは、十分気を付けなければいけないところです。

では 8 年度の計画について説明していただいて、最後に検討していただいてよろしいでしょうか。

<資料2に基づき事務局説明>

座長

ありがとうございます。

現在の計画の延伸を行うという話でした。これについて意見はございますか。

委員

自治体の中でもですね、これほど教育 ICT 化に、エネルギーに取組んでおられるところというのは、大変素晴らしいなというふうに思います。この変更があったということですけども、次年度の結果が楽しみだと思っております。本当に最後雑談的なこととなりますけれども、私はこの懇談会が非常に楽しみで、毎年出てくるたびに、その最先端の自治体の取り組みを教えていただけたということと、また、このテーブルの話題になることもですね、非常に先進的なことが多いところで、来年本当にどんな、話題がここで話し合われるのであろうと、もし、また、お目にかかれるのであれば、非常に楽しみにしているところです。

委員

赤字の重点というところがそれぞれピックアップされてアンケートになっているのですが、基本目標 1、3 のところも重点になっているのに、特別な支援や配慮を要する児童生徒に対する ICT を活用した学びの保障の目標設定がないのは何故でしょうか。

事務局

私の方から説明させていただきます。確かに重点目標として掲げながら、当初の KPI のところには具体的な数値目標というものが掲げられていないというところは、おっしゃる通りでして、今、現行の計画の期間は、ここに具体的な KPI を載せるというところは、とりあえず現行を維持しつつというところなのですが、2 年後にまた改めて策定をするときには変わらず、特別な支援や配慮を要する児童生徒に対する学びの保障は重点であることに変わりはないのかなと、さらに ICT を活用していかなければいけない分野ではあるのかなというところがありますので、ただ、次期計画の策定の時に、具体的にどういうことを目標にすると、より児童生徒さんにとって良くなっていくのかというところを考えて、指標等の設定に取り組んでいければなど、この 2 年間でそういったところも特に研究を進めていただけたらなという風に思っておりますので、またご意見をいただく機会がありましたらぜひお願いしたいなと思います。

座長

ありがとうございます。政策評価を研究していたことがあります。KPI がある方がかえって自由に動くことができず、硬直化しやすいこともあります。重点になっていて KPI がないことで柔軟に、重点的にやっていきやすい環境でもあるという風に個人的には感じているので、KPI で達成しないといけないうてなると、かなり数字を追い求めてしまうというようなところに、なりがちなもので、KPI がないことをもって、ただちに重点化されていない、大事にされてないという風なことでもないかなと感じております。これにて、本日の議案を終わらせていただこうと思います。

事務局

ありがとうございました。委員の皆様にも、活発なご意見をいただき、ありがとうございました。まだまだ時間足りないところで申し訳ございませんが、本日いただいたご意見を参考にさせていただいて、第 2 期の草津市学校教育情報化推進計画はまだ続きますので、その中でもまた色々な変更を加えながら、より良いものにできるように、また今日特に AI の話題をたくさんいただきましたので、そういったあたりも活用させていただきながら、進めてまいりたいと思います。

それでは以上持ちまして、令和 7 年度学校教育情報化推進懇談会を閉会とさせていただきます。皆様ありがとうございました。

14:45